

神奈川県小田原市 E Vカーシェアリング事業

視察先
日時

神奈川県小田原市
令和6年8月9日



小田原市概要

(小諸市)

- ・人口 186,000人 (41,500人)
- ・高齢化率 30.5% (34.1%)
- ・標高 14m (680m)
- ・年平均気温 16.0℃ (10.7℃)
- ・平均降水量 2,020mm (896mm)

※ データ引用元は様々なので参考値

目的

- ・ E Vカーシェア事業について学ぶ
- ・ E Vカーシェアの実状を確認する

結果

- ・ 目的は達成した
- ・ 小諸市で令和6年度より本格化する『脱炭素先行地域事業』の一部となる『小諸E Vカーシェアリング』の事業化審査の参考になった。

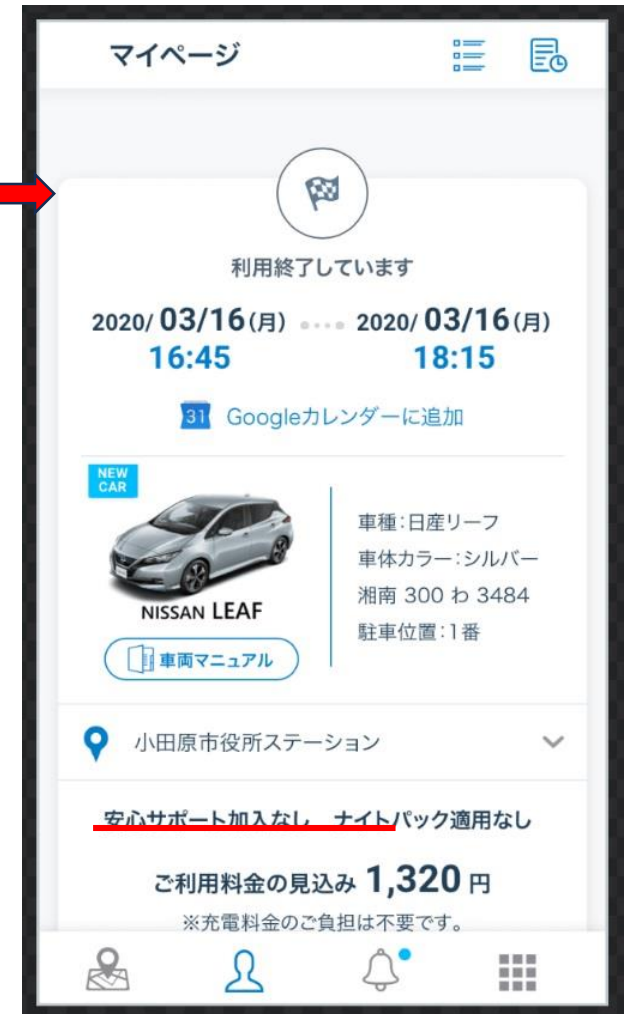
小田原市 E V カーシェアの特徴

- ・ E V カー 日産リーフ・サクラ 74 台 (25 カ所)
 - ※ 小田原市外地域も含む
- ・ 委託事業者 (株) レクシブ
- ・ 運営方法 専用アプリ『eemo』(職員・市民とも)
- ・ 公用車 E V 74 台のうち 7 台を市庁舎ステーションに置き、平日昼間は公用車として利用、その他は一般市民会員にシェア
- ・ 財源 2019 年、環境省の「重点対策加速化事業」に選定され、40 億円の補助を受けスタート
2022 年には「脱炭素先行地域」にも選ばれる



小田原市役所 E V ステーション (ノート 2 台、サクラ 5 台)

※ E V : 充電器 = 1 : 1



- ・ 市民会員 4,100 人 (内職員 160 人)
- ・ 年間利用者数 約 10,500 回

官民連携

協定締結（2019.10.18）

小田原市

- ・委託（資金投入）
（市としては投入ゼロ）
- ・計画作成
- ・調整窓口・会議
- ・成果の発信
- ・フィールド提供

ゼロカーボン推進課 8名

副部長（課長兼務） 1名

ゼロカーボン推進係

副課長（係長兼務） 1名

係員 3名

- ・地球温暖化対策 ・啓発普及
- ・計画の策定・進捗管理

エネルギー事業推進係

係長 1名

係員 3名

- ・公民連携・市役所脱炭素推進
- ・事業化に係る調整

レクシブ

- ・E V 導入・配置
- ・カーシェア運用
- ・アプリ開発運用
- ・事業拡大
- ・E V を活用した地域
エネルギーマネージ
メント
- ・成果の発信
- ・独自に事業拡大

日産自動車

- ・技術情報提供
- ・広報サポート
- ・youtube動画配信
<https://youtu.be/jcaEOa0HeEQ?si=BmPlbNYD7yoGytER>

湘南電力

- ・電力メニュー提供
- ・地域再エネ活用
- ・成果の発信

連携

公共交通機関

E V カーステーション
配置事業者等

近隣自治体

金融機関

レクシブeemoのEVステーション全国配置

レクシブeemoは小田原市を中心に、
全国に25ステーション・EV74台に
拡大・展開している。

(推測)
小田原市からの委託事業を、独自
に拡大したものと思われる。

青森県三沢市

7カ所7台

新潟県

1カ所1台

福島県

2カ所3台

小田原市

12カ所29台

広島市

1カ所2台

箱根

1カ所1台

首都圏

6カ所18台

名古屋

2カ所4台

湯河原

1カ所2台

壱岐島

1カ所2台

小田原市委託分の
初期eemo事業展開

八丈島

1カ所5台

小諸市行政に検討して欲しいこと

① 専任の係を新設して頂きたい。

理由 50億円の事業を効率よく動かし、最大限の効果を実現するためには、小田原市のような専任組織が必要と思われるから。

② E V：充電器＝1：1 で計画して欲しい。

理由 もっとも効率よくE Vカーシェアを稼働させるためには充電待ち待機はあってはならない。
電力ピーク時の庁舎への電力供給や、災害時に電力ステーションとして利用するためには、E Vは常に適切な蓄電が必要であるから。

③ E Vは国産車で計画して欲しい。

理由 国産メーカーであってこそ、技術サポート・広報サポートを受けられそうな気がする。
修理・部品調達が容易。
調整会議などにも出席が期待できる。

小諸市行政に検討して欲しいこと

④ **E Vカーシェアリングの成果が市民の目に見えるようにして欲しい。**

理由 小田原市ではそれが不十分な気がしたから。

小諸市がゼロカーボンシティ推進に積極的である事のP Rが必要だから。

⑤ **E Vや蓄電池・太陽光発電を利用した庁舎内外のエネルギー循環やE Vの役割などについて、市民にしっかり説明して欲しい。**

理由 小田原市民はE VカーシェアによるE Vをレンタカーとしてしか理解していない気がするから。

地球温暖化防止への貢献を市民にも感じて欲しいから。

⑥ **小諸市中心市街地以外にも市民向けのE Vカーシェアを検討する場合は、東信地区のE Vカーシェア先進地として、佐久平駅付近・軽井沢駅付近などへのステーション設置も検討して欲しい。（広域化）**

理由 小田原市からの受託事業者レクシブは、小田原市内だけでなく箱根や東京にもステーションを拡大することで効果を上げているから。

群馬県高崎市 SOSサービス事業



視察先 群馬県高崎市
日程 令和6年8月8日
時間別

10:00～子育てSOSサービス事業
11:00～介護SOSサービス事業
13:30～ヤングケアラーSOS事業

高崎市概要

・人口	366,547人	(小諸市) (41,500人)
・高齢化率	28.85%	(34.1%)
・要介護度認定率	17.8%	(13.3%)
・年少人口率 (15歳未満)	12.06%	(11.36%)
・生産年齢人口率 (15～64歳)	59.36%	(55.70%)
・面積	401 km ²	(98.66 km ²)
・標高 (市役所)	97.1m	(682m)
・年平均気温	14.6℃	(10.7℃)
・平均降水量	967mm	(896mm)

※ データ引用元は様々なので参考値

目的

- ・市民の生活をサポートする「SOSサービス事業」の取組や効果や運営方法を学ぶ
- ・小諸市でも似たサービスの導入や改善を検討するための参考とする

結果

- ・目的は達成した
- ・小諸市は特にヤングケアラーや介護、子育てに関する支援体制の強化が急務であり、今後の市議会においても積極的に議論していく方針

介護sosサービス事業について

＜目的＞ 高齢者の在宅介護の支援として、家族や介護者の介護負担の軽減と、介護が原因による離職の防止のため

＜背景＞

急な残業や
出張で家に帰れない



子どもが急に
熱を出し、病院へ
行くことに



急な用事が
あるけど他に介護を
頼める人がいない



連日の介護で
ゆっくり休める
時間がない



＜特徴＞ **24時間 電話1本** いつでも利用可能！ 要介護認定 事前登録不要！
高崎内在住し、住民登録がある65歳以上の方の利用が可能

緊急訪問サービス



利用料金

1時間あたり

250円 (税込)

＜委託業者＞

・ **ケアサプライシステムズ株式会社**

＜提供する支援＞

- ・ 生活の援助（掃除、洗濯、調理等）
- ・ きょうだいの世話（身の回りの世話等）
- ・ 家族の介護（食事、排泄の介助、着替え）
- ・ 緊急宿泊へのつなぎ等

緊急宿泊サービス



利用料金

1泊2食付

2,000円 (税込)

1泊2食・送迎付

3,000円 (税込)

介護sosサービス事業について

<利用状況>

- ・令和5年度事業実績⇒訪問サービス1385件 宿泊サービス34件
- ・訪問依頼理由⇒介護者不在38.3% 転倒7.1% 本人傷病34.5%
- ・訪問提供サービス⇒身体介護61.6% 家事援助35.3%
- ・宿泊依頼理由⇒介護者不在74.1% 傷病0.9% その他22.4%
- ・利用者の介護認定⇒訪問 認定がない方の利用28.2% 介護度2 23.8%
宿泊 認定がない方の利用51.7% 介護度1 28.1%

<総事業費> (予算額 千円)

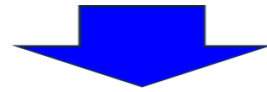
H28年度45,159
R2年度 89,997
R5年度 89,997

<課題>

- ・価格は保険介護サービスと同様の金額を設定している為、お手軽だが予算確保が課題
- ・毎年膨れ上がる予算からもわかるように、これらは市民に必要なサービスである
- ・市内のどこにでも1時間以内に駆けつけられるようなサービスのため、サービス人材の確保
- ・他の自治体で実現していないのは、民間のパートナーさんを確保するのが難しいから

提案

小諸市へ提案！



予算をかけなくてもできることはある！

待つ福祉から、出向く福祉への転換を目指す「小諸モデル福祉」を構築して欲しい。

- ・地域ごとに集落支援員を「サポート担当者」として配置し、支援体制を強化
- ・民間の福祉サービスと連携し、市が支援をサポートすることで、地域に行き届いたサービスを提供

子育てSOSサービス事業について

<目的> ヘルパーを派遣して、家事や育児の支援を行うことで、保護者の育児に関する精神的・肉体的な負担軽減を図り、保護者が安心して育児や日常生活を営めるようにする。

<背景>



<特徴>

利用料金 1 時間 **250円** (生活保護世帯は無料)

高崎市に居住する妊娠期や就学前児童のいる家庭。

サービスを提供する時間帯に在宅している必要あり (事前登録の必要なし)

子育てSOSサービス事業について

<利用状況>

- ・令和5年度⇒ 3,133 件
- ・ヘルパー状況⇒嘱託ヘルパー 4 名 パートヘルパー 11 名
- ・内容⇒①家事支援（掃除・後片付け等、洗濯、買い出し等）
②育児支援（授乳、おむつ交換、沐浴等）
③子育てに関する相談（困りごとにヘルパーや保健師が連携）

<総事業費> (単年度)

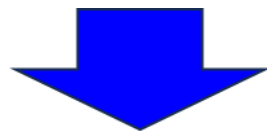
令和5年度
33,708 千円

<課題>

- ・申し込みの多い時間帯や土日に働けるヘルパーの確保
- ・急な支援の要望への対応 ・ヘルパーの研修体制の充実（離乳食対応）
- ・制度の趣旨の周知 ・関係機関との連携の強化 ・サービスの拡充

提案

小諸市へ提案！



サービスの提供により家庭の状況もみえてくる

- ・訪問介護サービスとの連携
- ・育児ノイローゼの発見や育児相談にもつながる
「1時間なんでも支援、なんでも相談300円」を検討して欲しい。

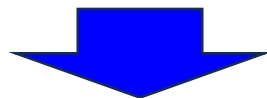
ヤングケアラーSOSサービス事業について

＜事業目的＞ 「**高崎市の子どもは高崎市で守る**」という強い思いのもと、家事や兄弟の世話、家族の介護等を日常的に行っている子どもに代わり、家事介護等を行う

＜視察目的＞

- ・ ヤングケアラーの支援体制を学ぶ
- ・ ヤングケアラーコーディネーターの取組

特徴



〈提供する支援〉

- ・ 生活の援助（掃除、洗濯、調理等）
- ・ きょうだいの世話（身の回りの世話等）
- ・ 家族の介護（食事、排泄の介助、衣類交換）

※ヤングケアラー支援推進委員会が決定
構成は 有識者 6 名、月 1 回開催

〈サービスの提供〉 1 日 2 時間、週 2 日無料でサポーター

〈予算額と積算の根拠〉 令和 6 年度当初予算 **9,700万円**
(支援が必要と思われる子どもを 6 0 人と想定して積算)

〈委託業者〉

- ・ **ケアサプライシステムズ株式会社**
(**介護SOSサービスと同じ事業者**)

〈職員体制〉 教育委員会学校教育課 S S W 1 名、相談員 2 名、職員 5 名 計 8 名

〈派遣開始〉 令和 4 年 9 月

ヤングケアラーSOSサービス事業について

- < 課題① >
- ・「お手伝い」や「しつけ」との境目はどこにあるのか、理解を深める
 - ・ヤングケアラー発見に向けた気づきのポイントを周知する必要がある

ヤングケアラーはこんな子どもたちです

家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どもをいいます。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

ヤングケアラーSOSサービス事業について

<課題②> ・家庭に踏み込みにくい

<総事業費>
(単年度)

提案 小諸市へ提案！

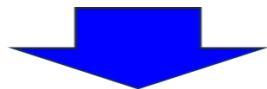
令和6年度
97,000 千円

ヤングケアラー支援プログラムの取組の必要性

- ・相談窓口を設置を検討してはどうか
- ・高崎市のように、ヤングケアラー支援窓口を教育委員会に置き、福祉部門とは横の連携を強化して、窓口の一本化を検討してはどうか
- ・ヤングケアラーを支えるボランティアの募集を検討してはどうか
- ・国の補助金制度によるヤングケアラーコーディネーターの配置を要望してはどうか
- ・小諸市が実施しているアンケートの結果から、支援を必要としている子どもの実態を把握して、支援の取組の強化してほしい
- ・県社協との連携強化を検討してほしい



なぜ高崎は、このようなサービスができるのか？



- ・ 民間企業との連携を重視し、特に、ヤングケアラーの支援や介護・子育てSOSサービスに関しては、学校や医療機関、福祉施設など、地域全体が協力して問題に取り組む体制を築いている
- ・ 市長公約でもあったため、積極的に取り組むことができた

高崎市独自の取組

①高齢者あんしんセンター（地域包括支援センター）の拡充

- ・ 待つ福祉から出向く福祉へ

②SOSサービスの充実

- ・ 高齢者SOSサービス ・ 子育てSOSサービス ・ 高齢者ゴミ出しSOS
- ・ ヤングケラーSOSサービス ・ 高齢者のしごとSOS ・ 高齢者世帯買い物SOS

提案

小諸市への提案まとめ



- ・ 公民連携と地域全体の協力
- ・ 専門的な行政組織の存在が必要
- ・ 相談窓口の設置
- ・ 地域ごとのリーダー育成